

平成15年度「アイデアオリンピック」表彰内容

○県の施策に関する提案

区分	テーマ及び提案内容	提案者所属・職・氏名
最優秀賞	(該当なし)	
優秀賞 (1)	<p>おもしろ理科先生派遣隊創設事業</p> <p>○科学技術立県を目指すなら、子供達に理科の楽しさを教え込むことが大切である。教員OB、研究所OBにおもしろ理科先生派遣隊に参加してもらい、派遣申込み(学校、子供会、地域コミュニティ)に対し、派遣する。</p>	企画部新線・つくば調整課 課長補佐 鈴木 誠
奨励賞 (5)	<p>ユニバーサルデザインの考え方によるまちづくり、ものづくり、サービスづくり</p> <p>○ユニバーサルデザインの考え方に基づき、施策を実施する。ユニバーサルデザイン室の設置(行動計画の策定等)、すべての人にやさしいまちづくり(生活環境の整備等)、すべての人が使いやすいものづくり(産学官共同のユニバーサルデザイン製品開発研究会の設置等)、すべての人に配慮したサービス・情報の提供(共通な又は業種別のサービスの指針等の作成)、すべての人の社会参加の促進(高齢者、青少年、障害者、健常者、男女がともに創るいばらきプランの策定等)等を行う。</p>	水戸土地改良事務所 係長 吉成 淳一
	<p>誰にでも優しい茨城県</p> <p>○県内で統一のユニバーサルデザインを取り入れ、誰がどこに行ってもそこに何があるかすぐにわかり、ほしいと思ったときにほしい物がすぐに見つけられるような環境づくりを目指す。 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付、エスカレーター、階段、トイレ等の案内に使用する表示の絵柄や表示する場所を統一する。 ・幼年者が読むことを想定し、文字には全てルビを振る。 	企業局総務課 主事 田尾 絃子
	<p>いばらきを遊ぼう</p> <p>○新しいことにチャレンジしようとしている各世代の取り組みを茨城の魅力とマッチングさせ、県内外の人の潤いある生活をバックアップし、県の観光施設等の活性化、県のイメージアップを図るため、季刊誌として「いばらきを遊ぼう(仮称)」を発行する。(イメージとしては「るるぶ」ではなく、「TokyoWalker」のようなもの。内容は、筑波山からはじめよう、サラリーマンのためのサーフィン教室、始めようスカイスポーツ、めざせそば打ち職人など。)</p>	農林水産部農産課 主事 松長 宏一
	<p>公共事業改革に対応した関連産業の支援施策</p> <p>○公共事業関連産業(主に建設業)を支援するため、単に従来どおりの存続を図るのではなく、経営基盤の強化、他産業へのシフト等を促す体制・環境の整備を行う。雇用を伴う関連各部署と連携し、需要が見込まれ進出可能な分野への転換を模索し、研修・職業訓練・情報提供を行って新たな雇用・産業の活性化につなげる。</p>	土浦土木事務所 主事 富樫 仁彰
	<p>いばらき自動車生産販売総合基地づくり</p> <p>○製造拠点の誘致や販売拠点、流通拠点の総合基地化を図り、本県インフラの有効活用を図るため、ひたちなか地区の空き地を巨大な自動車展示販売場にするとともに、常陸那珂港の中央埠頭にできる港湾関連用地は中古自動車のオークション会場として活用する。 また、燃料電池の開発研究には東海村の大強度陽子加速器やつくばの研究所が貢献できることから、本県は燃料電池の車の開発基地としての発展可能性があり、自動車メーカーを誘致アピールできる。</p>	企画部企画課 企画員 伊佐間 久

○業務や事務の改善等に関する提案

区分	テーマ及び提案内容	提案者所属・職・氏名
最優秀賞	(該当なし)	
優秀賞 (1)	記名票の改善 ○現在の記名票を「顔写真入りの名刺版サイズ」に改める。着用方法は、現行の方式と首から掲げる方式が考えられる。	総務部職員課 課長補佐 生田目 陽一
奨励賞 (4)	固定電話から携帯電話への通話料の節減 ○携帯電話の普及により、各職場での一般電話から携帯電話への通話量が以前と比べて増加しており、一般電話から携帯電話への通話料が高いため、携帯電話への使用頻度が高くなるほど、通信費が圧迫される。職場の主装置にモバイルジャック（携帯電話への自動接続器）及び携帯電話を接続（携帯電話は、電話会社と契約し、購入）することにより、通話料が節減できる。	県中央水道事務所沼沼川浄水場 係長 久野 祐一
	休憩中プレートの掲示着用 ○職員が会議等のため、休憩時間外の勤務中に生協食堂を利用して昼食をとる場合があるが、勤務時間中であるため、来庁者に誤解を招いたりすることがある。休憩中プレートを着用することにより解決できる。（休憩中プレートは総括補佐等が管理し、職員の申し出により利用できるようにする。）	総務部税務課 主事 齋藤 智
	窓口業務の休日対応 ○届出・申請の手続について、土日でも対応可能な部署については人員の増、勤務時間の選択制にするなど、ワークシェアリングを推進する。	教育庁財務課 主任 樫村 英行
	コピー機のスキャナー機能の活用 ○外部からの文書はまだ紙ベースで来ることが多く、メール等でやりとりができない。現行のコピー機にはスキャナー機能がついているが、あまり使用されていない。情報政策課、あるいは委託業者が各課を回り付属ソフトをインストールし、合わせて活用を促せば全庁的に活用されることとなる。	総務部行財政改革・地方分権推進室 係長 鷹羽 伸一